祝「うえまち」創刊20周年！
「うえまち」は2025年4月、20周年を迎えます。
web版では街ネタ・グルメ・イベント・歴史・教育・子育て・福祉・医療など地域情報を紹介。創刊号（2005年4月号）からのバックナンバーもご覧いただけます。
うえまち新聞 web版

上町台地界隈の情報紙 うえまち

揮毫 一心寺 長老 高口恭行 師

since2005 第232号 2025年1・2月号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞 web版

「上町台地」名所図会 第27回

越中井（中央区）

越中井（写真左）の越中とは細川越中守忠興を指します。彼の屋敷の台所が付近にあったことから、このように名づけられました。摂津名所図会に掲載されるなど江戸期は観光地だったようで、大正期までは実際に井戸があったといいます。現在の井戸は戦後になり、地域の住民によって復元されました。

実は、ここは歴史を変えた場所でもあります。忠興の夫人はクリスチャンで有名な細川ガラシャ（玉子）。明智光秀の娘で、絶世の美女としても知られています。関ケ原の戦いの前、家康と一緒に会津征伐に出向いた忠興たち豊臣恩顧の武将を、三成は反家康の陣営に引き入れようとしました。まずは武将の家族を人質に取ろうと考え、細川邸を囲んだのですが、ガラシャは家臣に自らを介錯させ、屋敷に火を放つよう命じたのでした。結果、人質作戦は失敗に終わります。

井戸の横には、昭和初期に地元の人たちによって建立された顕彰碑が建ちます。側面には、ガラシャの辞世の句「散りぬべき 時知りてこそ 世の中の 花も花なれ 人も人なれ」が刻まれています。近くの聖マリア大聖堂にはガラシャ像（写真右）もあり、堂本印象が手掛けた内陣の絵には彼女の姿が描かれています。上町台地のこの地には、いまもガラシャの記憶が強く刻まれているのです。（「聖マリア大聖堂」はうえまち号外23年5月号で紹介しています）。

中央大通りから南にひっそりとたたずむ

教会内部の絵にもガラシャの姿が描かれる

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。
松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※『うえまちweb』（https://uemachiweb.com/）連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

相羽秋夫の らくごハローワーク

雀荘（麻雀クラブ）

第37職 『仲良くやろう雀（じゃん）』と一人麻雀

麻雀（マージャン）をこよなく愛する男、このままでは身を持ちくずすと考える。今日限りで止めようと決意して、最後のゲームをするため雀荘（じゃんそう）にやって来る。

親しい友人3人と始める。それぞれに冗談を飛ばしながら楽しく進行するが、男1人が大敗することが分かる。もう1度やりたいと言う男を無視して帰ってしまう。男「ええわい！　別の友達を呼んだらしまいや。1人でやっているのやから」。（6代桂文枝作）

◇

雀荘（麻雀荘）は、席料を取って麻雀をさせる場所である。麻雀クラブと呼ぶこともある。

麻雀は、中国の宋期に誕生した馬吊（馬弔。マーティアオ）が原型とされる。その後、19世紀に陳魚門という人が、現在のような形に整えた。

日本には、大正期に英語教師の日本人によってもたらされた。そこから流行の勢いは盛んになり一般の家庭でも行われるようになった。戦後は、学生の間で大流行し、大学の周辺に多くの雀荘が作られた。

ゲームは、4人で四角のテーブルを囲んで行われる。136個の小さい竹片（牌・パイ）を、各自13個ずつ持ち、14個で完成させる。その牌には、万子（マンズ）・筒子（トンズ）・索子（ソーズ）・三元（白板・緑発・紅中）・四喜（東・南・西・北）の5種類がある。

目前に積まれた牌を持ってくる自摸（ツモ）、自分の直前の順番の人から取る吃（チー）、誰からも貰える碰（ポン）、同じ牌を4枚集める槓（カン）などの方法で、点数の大きい集め方をくり返す。全てのゲームが終了した段階で、一番点数の多いものが勝ちとなる。

点数によって額の変わる金額を賭（か）けたり、景品を授与したりする。ただし賭け麻雀は、高額すぎると賭博行為と見なされ、法律で罰せられる。

1929年には、日本麻雀連盟が結成され、段位制も採用されている。近年は、特に学生の間で麻雀熱が消えた。

麻雀に良く似たカードゲーム「セブンブリッジ」は、日本独自のゲームとして愛好者が多い。

NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで
TEL:06・6779・7222

住まいと暮らしの総合無料相談会

2月8日・3月8日（土）
10時～12時

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください（電話受付は平日10～15時）。

主催：NPO法人まち・すまいづくり（市立社会福祉センター指定管理者）
電話：06・6779・7222
場所：大阪市立社会福祉センター（天王寺区東高津町12・10）
後援：天王寺区役所

うえまち新聞web掲載写真募集！

web版うえまち新聞では、掲載用の写真を募集中です。

「あなたの街の掲示板（町名を入れて撮影してください）」「いい店見つけた！」「街で見つけた不思議」ほか、街で思わず撮ってしまった何気ない風景写真を、一言コメントとともにお寄せください。採用させていただいた方の中から毎月3名様に、「上町台地名所百景」マップをプレゼント。

※発表は商品の発送をもって代えさせていただきます。

NPO法人まち・すまいづくりは、2024年に、創業20周年を迎えました。
これを記念し、「勝ち虫」の吉祥文様、トンボづくしの伊勢型染めオリジナル手ぬぐいを販売しています。
詳細・お問い合わせは、NPO法人まち・すまいづくり（TEL:06-6779-7222）までお問い合わせください。

上町台地界隈の情報紙 うえまち

揮毫 一心寺 長老 高口恭行 師

since2005 第233号 2025年1・2月号

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり
発行人：竹村伍郎
TEL&FAX：06-6779-7222
http://www.machi-sumai.com/
uemachi@machi-sumai.com
〒543-0043
大阪市天王寺区勝山1-11-29

うえまち新聞 web版

「上町台地」名所図会 第28回

天下茶屋跡（西成区）

昔の大阪のメインストリートは御堂筋ではなくいまの堺筋だったことは、ご存じの人も多いでしょう。その名のとおり堺筋は大阪と堺を結んでおり、和歌山まで通じています。そのため紀州街道とも呼ばれ、御三家の紀州藩などが参勤交代で利用し沿道は大いににぎわった、といわれています。

その堺筋（紀州街道）の整備を命じたのは秀吉でした。彼はこの道を使ってたびたび住吉大社や堺を訪れたのですが、途中で立ち寄ったのが天下茶屋。かつてこの場所には、天正年間（1573～92）に楠木氏の流れを汲む芽木家が開いた茶屋がありました。ある時、その茶屋の水を使い千利休に茶を点てさせたところ、その味にいたく満足し芽木家に褒美を与えた――。そんなエピソードから「殿下茶屋」あるいは「天下茶屋」と呼ばれた、と伝わります。

実は、第三次世界大戦の前まで芽木家の広大な屋敷と名水の泉も残っていたのですが、残念ながら戦災で焼失。いまも残るのは大きな楠のみで、戦後になって天下茶屋跡を示す石碑と秀吉の像が建てられ、土蔵が修復されたのでした（写真左）。

天下茶屋で茶を点てたのは利休ですが、彼は武野紹鷗（たけのじょうおう）と呼ばれる人物の弟子で、紹鷗から「詫び茶」の精神を引き継ぎました。実は、その紹鷗が茶室を建て隠棲したのが、天下茶屋跡の目の前にある天神ノ森天満宮（紹鷗森天満宮。写真右）です。上町台地の南に、茶道史に残る場所があるのは本当に面白いですね。

ゆかりの屋敷と名水は戦災で失われてしまった

利休の師である紹鷗が隠棲した場所も近くにある

中原文雄／写真
1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。
松本正行／文
1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会（ずえ）とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。
※『うえまちweb』（https://uemachiweb.com/）連載の「『上町台地』名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

相羽秋夫の らくごハローワーク

カラオケ・ボックス

第38職 親の前『カラオケ息子』声を張る

長男は野球ファン、二男は落語ファン、そして三男は大のカラオケファンで、毎日カラオケ・ボックスに入りびたっている。

今夜も、3人は帰宅すると、両親の前で趣味の話をして悦に入っている。三男は、得意の演歌を何曲も披露した上で、母親に向って「母さんお肩をたたきましょう……」と童謡を唄い始める。「演歌ではないやないか」と問うと三男「母さんの顔見て動揺（童謡）した」。（青井竿竹作）

◇

空（から）のオーケストラを略したカラオケという語は、日本語と英語の合成語である。

歌謡曲などの伴奏だけを演奏し、利用する者がそれに合わせて歌うことが出来る装置のことで、日本発の世界共通語になった。

1970年代に、神戸の歓楽街で産声を上げた。酒場で歌を歌うとなると、流しの演歌師を呼んで、ギターやアコーディオンなどの伴奏で歌うのが一般的であったが、カラオケの出現で、安価に手軽に好きな歌を歌えるとあって、サラリーマンを中心に一気に火が付いた。

10年後には、アメリカに加え韓国、台湾などアジアにも広く普及し、世界的な流行を見せる。同じ頃、酒場だけでなく一般家庭向けにカラオケの機械が発売されるようになった。

やがて専用の独立した小部屋を時間制で貸与するカラオケ・ボックスが登場する。アルコールを含む飲み物や軽い食事も提供されたので、手軽なレジャーとして、今や大きな産業の地位を占めている。

当初は、伴奏テープだけだったが、ビデオディスクで歌詞とその曲のイメージにふさわしい画像が流されるようになり、より一層その価値が高まった。

さらに、1990年代には、通信カラオケが考案され、店側がソフトを用意することが不要になったため、クラブやスナックでも必須の装置となっている。

歌い終わった後、歌唱力の評価が画面に点数で表示されるものもあり、その点数で景品を出すなど、カラオケを媒体とした新しいサービスが生まれている。

大阪市博物館機構 展覧会情報

大阪市立美術館
3月1日（土）リニューアルオープン。
3月1日（土）～3月30日（日）リニューアルオープン記念特別展「What's New!大阪市立美術館　名品珍品大公開!!」

大阪歴史博物館
1月11日（土）～3月3日（月）特別企画展「発掘！大名たちの蔵屋敷―天下の台所」に集う米・物・人―」

大阪中之島美術館
開催中～2月24日（月・休）「歌川国芳展―奇才絵師の魔力」

大阪市立東洋陶磁美術館
開催中～3月30日（日）大阪市・上海市友好都市提携50周年記念特別展「中国陶磁・至宝の競艶―上海博物館×大阪市立東洋陶磁美術館」

大阪市立自然史博物館
2月22日（土）～5月6日（火・休）特別展「貝に沼る―日本の貝類学研究300年史―」

大阪市立科学館
開催中～4月6日（日）企画展「万博で夢見たサイエンス展」